

様式4の2

令和6年度 学校運営協議会評価報告書2

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

学校長 若林 安德

評 価 日	令和7年2月17日(月)	
評 価・提 言		学校の所見・改善策
1 重点目標の達成状況について ○自立を促すキャリア形成能力を育てる教育の推進…概ね達成 ○協同の学びで自他を高める教育の推進…概ね達成 ○学びを創造する力を高める教育の推進…概ね達成 ○業務改善の取組…変化の兆し 2 目標達成のための取組結果について ○地域連携について ・専門人材の育成に関するスキルアップへの取組を評価する。高校3年間は人間力を高める大切な時期であり、なかでも地域連携によりコミュニケーション能力を養うことが重要と感じる。地域で若者の力を生かしたい。高校生との交流が薄い状況にあるが、期待している。 ・幼稚園では実習やボランティア活動で関わっている。何度も体験するうちに挨拶や返事、伝え方など、目に見えて良くなっている。ボランティアを受ける側も、生徒を育てることに使命感を持っている。続けていきたい。 ○ICT活用について ・デジタルの活用において、「理解が深まる」「主体的に学べる」と回答した生徒が多い。全国的にみるとDX化はなかなか進んでいないと感じる。 ・HPを拝見し、バーチャル学校見学でわかりやすいと思った。Instagramの活用も効果的。生徒の中に発信を担当するチームを作るといい。		○地域との連携で生徒が変化する場面を増やし、これをPRしていきたい。高校の活動で地域に出かけるきっかけをつくり、各自の地元に帰っても地域と連携出来るといい。ボランティア活動など、地域の方との連携の場をつくっていく。 ○Instagramも投稿数が多くなっている。情報科の課題研究で情報発信のチームがあり、自作バーチャルキャラクターを用いた学校動画配信や学校のメタバース化に取り組んでいる。来年は、科を超えて課題研究チームをつくる予定。DXの取り組みを情報科と他科とが連携することで、探究的な学習を充実させたい。

3 具体目標の達成状況について ○地域連携とキャリア教育 様々な地域連携活動、地域貢献活動が活発に行われている。このことがふるさとキャリア教育や進路決定へどのように影響しているか。地域連携、地域貢献をとおして地元で働く意識が育っていることがPRできるという。 ○自宅学習について 自宅学習時間は増えてはいるが、高校生としては少ないのではないかと。改善策にある落ち着いて学び直しに取り組める環境の整備とは何か。何かできるという。 4 目標達成のために取り組んだ具体方策について ○進路指導について 進路指導に対する生徒の評価が高く、就職も100%決定している。一方で就職者数は減少しており、専門学校進学が増えているのはなぜか。電子機械科の人数が少ないのは、中学生に魅力が伝わっていないのではないかと。 5 その他 ○この会の資料は郵送ではなくメールでのデータ配信でよい。ペーパーレス化も進められる。 ○生徒のトイレは暖房便座か。そうであるという。	○各科で課題研究のテーマとして地域課題を取り上げている。直接的に進路決定に影響があるかは不明だが、地域連携で地域課題に関心を持たせ、地元就職につなげたい。 ○放課後、自主学習したい生徒や先生に教えてもらいたい生徒が落ち着いて学習する場所を求める意見があった。考査前だが、選択教室を自主学習のための教室として開放している。 ○高卒で就職することを決めかね、上級学校に進学して資格を取ることを目指す傾向がある。電子機械科（工業学科）の生徒数減少は全国的な傾向でもある。高校で扱うベーシックな内容と、社会のニーズや中学生が求める内容に隔たりがあると思われる。科を超えて他科との融合していく中で、新しい内容を取り入れていきたい。 ○検討する。 ○予算化されることを望んでいる。
---	---